

まち・ひと・しごと創生本部会議 総合戦略策定に向けて



総合戦略について協議をした本部会議



写真上：市民会議(高校生版)の様子
写真左：市民会議(交流・定住部会)の様子

8月5日、第7回まち・ひと・しごと創生本部会議が市役所本庁舎で開かれました。真庭市では、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に市民の意見を反映するため、市民会議や市内高校生を対象とした高校生版のワークショップを開催。それらの意見を盛り込んだ、雇用創出、交流・定住、子育て・教育、都市づくりの4部会の人口減少に対応した具体的な事業が報告されました。今後、総合戦略の決定に向けて、事業の検討が行われます。

里山真庭の森林づくり推進事業 持続可能な森林利用に向けて

8月5日、市役所本庁舎で「里山真庭の森林づくり事業説明会」が開かれました。市が進める森林基本計画作成事業を、住友林業株式会社と委託契約を締結し、その業務内容を担当者が説明しました。美甘地区をモデル地区として、木の成長力、搬出の利便性によって森林を複数のエリアに分類し、安定して木材を供給するための管理計画を作成。伐採した木材の効率的な搬出を可能にする大型機械の実証実験を実施します。



関係者の前であいさつをする太田市長



赤ちゃんを抱っこする生徒

赤ちゃんふれあい体験 in 北房 命の大切さを学んで

8月4日、赤ちゃんふれあい体験が北房文化センターで開かれ、北房中学校の生徒が地域の赤ちゃんふれあいしました。命の大切さや、赤ちゃんを産み育てる喜びや苦労について学ぶ機会にしてみようとうと、愛育委員会北房支部が今回初めて企画。始めは緊張している様子の生徒でしたが、赤ちゃんの笑顔を見て次第に表情を緩めていきました。主催者は命の大切さを感じる機会を地域にも広げていきたいとしています。



市政に関する動きの一部を紹介します

7/25 解体中の校舎で合同訓練実施

津山圏域消防組合、真庭、美作市の3消防本部が、解体中の落合中学校旧校舎で、合同訓練を実施しました。建物の倒壊で生き埋めになった人を救い出す開口部をつくる「ブリーチング」と呼ばれる作業を行いました。



8/17 市役所で職業体験

真庭市インターンシップとして、大学生の安達駿さん、梶岡美希さん、平井尚子さん、池田麗菜さんの4人が、市役所での職業体験実習を21日まで実施しました。与えられた仕事に4人は真剣に取り組んでいました。



市長室から こんにちは!

CLT首長連合発足と地方創生のモデルへ

14人の知事、市町村長が参加する「CLTで地方創生を実現する首長連合」が、小泉進次郎内閣府政務官などの出席の下、8月14日に設立され、尾崎高知県知事と私が共同代表に就任しました。CLT（直交集成板）は、木材需要を回復させる有効方策だけでなく、日本を「木の国」として再生させ、オリンピックでの使用や木材輸出にもつなげることができる、農山村における地方創生の切り札の一つ。政府の成長戦略にも明記されています。木材産業が製造業出荷額の25%を占め、市域の80%が森林である真庭市にとって、木を余すところなく使い切り、「山にお金が落ちるようにする」ことが、農業の振興とともに、地域活性化にとって重要な要素です。加えて、地域資源を活用して地域を豊かににぎやかにするさまざまな取り組みが、高校生も参加して市域全体に広がっています。真庭を地方創生のモデルにしたいものです。



体験談を交え講演する石黒さん

8月9日、「今から始める終活セミナー」が勝山文化センターで開かれました。講演会では一般財団法人長寿社会開発センターの石黒秀喜さんが「老いを見つめていきいき生ききる」と題して講演。人生の終わりに向けて、前向きに準備する「終活」についての説明、介護を受ける立場になった時のために今から準備できることや、石黒さん自身が認知症の義母を介護する中で学んだことなどを話されました。

終活セミナー
今をより豊かに生きよう



来場者に説明をする地域おこし協力隊メンバーと職員

8月12日から14日までの3日間、市役所本庁舎で、真庭市への帰省者や移住希望者を対象に、真庭ふるさと帰郷フェアが開かれました。会場には、市職員が常駐し、住居、就職、子どもの就学など幅広い相談に対応。真庭市への移住に興味を持つ人などが訪れ、市職員や、地域おこし協力隊の話を真剣に聞いていました。また、約40の企業や病院、福祉施設のパンフレットも置かれ、来場者は参考にしていました。

真庭ふるさと帰郷フェア
真庭の魅力をお伝えします